

アール

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2016 年 冬号
第 85 号



庚申堂 奈良市西新屋町

目次

- | | | |
|--|--------|--------|
| ■ 3委員会合同見学会 岡山・鳥取の旅 | 江木 博子 | 1～2ページ |
| ■ ユニバーサルデザイン講演会
～女幸プロジェクトのその後とユニバーサルによる「清溪川再生」～ | 相河 真弓 | 3ページ |
| ■ 近畿建築士会協議会女性部会企画セミナー | 岩城 由里子 | 4ページ |
| ■ 私と建築 | 野村 亜希子 | 5ページ |
| ■ 今後の事業予定 | | 6ページ |

3 委員会合同見学会

岡山・鳥取の旅

江木 博子

暖かい秋が続いていたのに、遂に寒さが来るという11月28・29日の2日間で、寒い鳥取方面へ見学会に行ってきました。

一日目。①津山リージョンセンター（岡山県津山市）。伸びやかな高原の中にある施設。設計者の意図していた仕掛けは、利用されず、単なる会議場としてしか機能していないように感じた。（アプローチ……すっきりとした建築物の足元の花鉢が気になった。建築的に解決する方法はなかっただろうか。）

（設計：北河原温建築都市研究所）



②津山洋楽資料館（津山城東街並み保存地区）



江戸詰め津山藩医の宇田川玄随をはじめとする、5人の洋学（蘭学）者の功績を伝える資料館。

（設計：象設計集団）
（←案内板！他に、置場所はなかったのかな？）

③旧梶村家住宅（津山城東街並み保存地区）。参勤交代路でもある出雲街道に面した、この町屋は、かつてどんな商いをしていたのであろうかと思わせる蔵と茶室、その他道具等を保持し、まさにうだつの上がる町屋。入場無料で、地元のおばあちゃん達が、炬燵で受付をしていた。せっかくの茶室や、建物がこのまま老朽化していくのだろうか？思わず、おばあちゃん達にがんばれなんて声をかけてしまった。（エラソウな私は何者なんだ？）



④奈義町現代美術館（岡山県勝田郡奈義町）。地面（グラウンド）、建物、空、太陽、とそこの環境すべてを統合してそこにあった。その建物には、どんな外部空間が必要なのか？⇔あるいは、その場所にどういう存在として建築物を存在させるのか？という問いに対する答えがそこにはありました。（設計：磯崎アトリエ）



見ての通り、私の下手な写真でもすっきりとしたそれなりの絵になる。しかも現地で違和感なくそこに在るのがすごい。さすが・・・。

⑤石谷家住宅（鳥取県八頭郡智頭町）
平たく言えば、山林王のお屋敷で、国の重要文化財である。敷地三千坪、部屋数40余りと7棟の蔵を有する大規模な木造家屋。

隣地の諏訪神社と杉山を背景とする約四百坪の庭は、手入れが行き届いて美しかった。撮りきれない程たくさんの欄間、障子、ふすま、その他ディテールの数々・・・時間が足りないとこぼしたら、見学会はイントロダクションだから後日再度じっくり自分のペースで見学するように、とのご指導・・・なるほど納得です。

今回のお宿は、天然温泉だったので、ゆっくりとあったまり1日目の疲れを癒しました。

二日目。⑥仁風閣（鳥取県鳥取市）



（春は見ごたえがありそうな鳥取城の石垣。この右側に仁風閣）

赤坂離宮や京都国立博物館などを設計した、片山東熊の設計。国指定重要文化財。鳥取藩主池田家の居城の跡地に立つ白亜の木造瓦葺二階建の洋館。

当時の粋と贅を尽くして建てられ完成と同時に時の皇太子（のちの大正天皇）の宿舎として使用された建物。室内のシャンデリアなどの電燈は鳥取初であったり、壁紙などはドイツなどから取り



寄せたものだったり、修復にあたって苦労されたらしい。

（鳥取藩主池田氏の家紋のアゲハチョウが、至るところで使われていた。）



⑦砂丘美術館

丘の斜面を利用した施設で、ゲートはクッキリと造り、本体は展示物を雨風から守り、見やすい構造とした明解な建物。

（設計：大建設計）

主役は、展示物というポリシーが感じられた。



案内板が、さりげなくアルファベットの表記だった。よく見ると、漢字平仮名も使われているが、ヘッドラインがアルファベットのみなので、一瞬英語圏にいる気がした。これくらいのバランスだと何気ないのだなと思った。

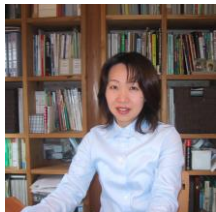


残念ながら雨が降り出して、結局砂丘には行けずじまいでした。

今回は、ルートに入っていなかった植田正治写真館とともに、また訪れてみたいと思いました。

2015 年 ユニバーサルデザイン講演会に参加
女幸プロジェクトのその後と

ユニバーサルによる「清溪川再生」
相河真弓



11月9日、奈良県建築士会館に、趙 玟珍（チョウ ミンジョン）先生（大阪府立大学工業高等専門学校総合工学システム学科都市環境コース講師）を昨年に引き続きお迎えして、韓国ソウル市の「女幸（ヨヘン）プロジェクト」とその取組がどの様にソウル市の人々に影響を与えたかについて、そしてユニバーサルの視点から「清溪川再生」について、お話しをお伺いしました。

「女幸プロジェクト」はイギリスの「女性にやさしいまちづくり」事業をモデル事業とし、2007～2010年に実施されました。①便利な生活を営む ②安全な生活を営む ③歩きやすい道をつくる ④保育の心配のない市をつくる ⑤仕事のある市をつくるを目標とし、女性の視点と体験を反映した新しい事業として5つの推進事業が行われました。その中の一つ「安全なソウル市づくり」の事業成果について具体的にお話しされました。

ニュータウン建設や都市開発事業にCPTED（防犯環境設計）を導入し、町の死角を無くし、自然な監視ができるようにしたり、建築許可条件付与を通じて女性にやさしい建物をつくることや公園等公共施設の景観安全設計の基準策定等が行われました。その結果、地下駐車場の照明が明るくなり、公共のトイレはバリアフリー化が進み、男性トイレにも子供用便器が設置され、駅構内に授乳室ができ、歩道整備が30箇所行われ、地下鉄・バスの吊革の高さが改善されました。その他にも町に多くの改善が見られました。そして素晴らしいのは、このプロジェクトの実施期間が終了してもさらに優しいまちづくりのきっかけとなり、今もその政策は発展し、進化し、根付き、活きている、という事です。

趙 玟珍先生の講演会の醍醐味は、お話の途中で

も私たちからの質問に誠実にお答え下さり、又、時に脱線しながら言葉のキャッチボールができる点にあると思います。今回のお話の中で最も印象に残ったのは、レジュメには無い「韓国の今」をお聞きできたことです。ソウル市には韓国人口の1/4が暮らし、ソウル市の取組は、韓国全体への影響がとても大きいそうです。私は社会人一年目に韓国の方の住宅設計に関わらせて頂き、当時の印象から、韓国は日本よりも家族制度が厳格であり男性優位の社会であると感じていました。ですので、育児や家事は女性がするもの、「イクメン」「女性の社会進出」なんて日本以上に難しい国と思い込んでいました。

ところが、この「女幸プロジェクト」や1997年の経済危機の影響で、韓国の、特に若い方々の意識は想像を超えるスピードで変化しているそうです。育児も家事も二人でするのが当たり前、職業を持つ自立した女性がお嫁さん候補となる・・・等。知らない間に日本は追い抜かれている（私の価値基準ですが。）と少々狼狽えてしまいました。韓国の方々は私たち日本人より軽やかに変化できる人々であると感じました。良いところは学びたいと思います。



趙 玟珍先生のお話しをお聞きすると、私たちにとって当たり前と思い込んでいる事が、角度を変えて見てみると違って見えたり、何かに気付かされたり、とても刺激になります。今年、ロサンジェルスへ行かれるとお聞きしました。また、日本に戻ることがあれば、お話の続きを聞きたいと思いました。

近畿建築士会協議会女性部会企画セミナー
岩城由里子

去る12月12日、近建女主催セミナー「くらしとすまいをみつめる“木材材料・木構法等について実例を見ながら学ぶ”」が開催されました。



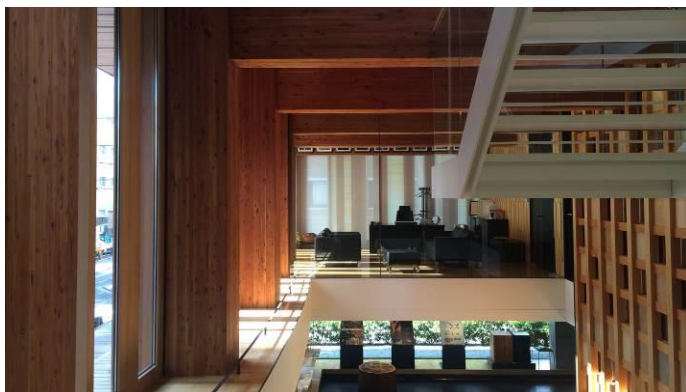
大阪木材仲買会館は3階建てで（木造（2、3階）とRC造（1階）の混構造）、国産の木材がふんだんに使われているのが特徴で、平成25年3月に竣工しました。セミナーの第一部は、設計に携わられた白波瀬智幸氏（竹中工務店設計部主任）より話をお聞きし、そのあと建物内を見学させていただきました。

この建物は元々この地に建っていた木材仲買会館の建て替え工事として計画されました。プロポーザルでは、敷地内の道路沿いに植わっている大きな2本の桜の木を残すことが設計条件だったそうです。この2本の木は、春には見事な花をつけて町の人たちにも愛されているそうです。建物は2本の木を包むように緩やかなカーブを描いており、桜の木との調和が印象的で圧迫感を与えない建物でした。

都市密集地域における木造建築として「①火に強い木構造（柱梁は耐火集成材「燃エンウッド」使用：1時間の耐火性能をもち4階建ての木造建築も可能）②木に優しい外装③天然木に囲まれた内部空間」の3つをコンセプトにされ、木造最新技術も取り入れられています。また、底の出が大きい意匠は外装の木を風雨から守り建物の耐久性を高める為で、1階をRC造にした理由は、海拔の低い大阪市内において万が一の津波の際にも木構造へのダメージを少なくする為の設計とのことでした。最新技術の導入だけでなく、自然条件や天災による木部劣化に対し

でも十分な配慮がなされていました。

内部仕上げも全て国産材です。（木材使用割合は構造7割：仕上げ3割）現しの構造体から細部に至るまで、多様な工夫で意匠的に木が使われています。



第2部は、滋賀県で大工をされている宮内寿和氏（宮内建築）と、宮内氏と組んで仕事をされている設計の川端眞氏（川端建築計画）のお二人によるセミナーでした。1960年代の木材輸入自由化以降、建築用木材は外国産が主流になり日本の山がどんどん荒廃している現状と未来を憂い、山の資源である木を生かして林業施業技術が次世代につながるよう、近くの山の木（滋賀県産材）を使った木造建築の仕事をされています。昔から伝わる伝統的な木構造の良さを生かし、一定の寸法の材料で構築できる四寸角挟み工法を開発されました。この工法の耐力を確認する為に、試験所で実物大破壊試験をして科学的に検証された過程についても説明がありました。また、木の乾燥による干割れを無くしたいという思いから、昔からなされている乾燥方法である水中養生を思いつかれ、近所の休耕田を池に改造して水中養生に取り組まれたそうです。両氏は、日本の伝統的な技術を現代に活かし継承することを日々の活動の動機とされており、大変興味深かったです。





私が最初に建築士という職業を意識したのは、建築士の伯父の家でドラフターを見た時でした。小学校高学年の頃だったと思います。絵を描くことが好きだった私には、その大がかりな道具と細かく描かれた図面が格好良く見えたのです。

また、父が建材の商社に勤めており、幼い頃から住宅展示場や建材関連のイベントによく連れて行かれたことも興味を持つきっかけになったと思います。自然と中学生の頃には将来は建築士になりたいと思うようになりました。

ところが、私は元々数学が苦手で、高校に入るとそのあまりの難しさに心が折れ、文系に進んでしまいました。そして、自分の得意科目で受験できる大学、センター入試の点数に見合った大学・・・と受験校を選び、その結果、建築士の夢は遠のいてしまいました。

大学卒業後は長女の子育てと仕事に追われ、バタバタと忙しい生活をしておりました。次女の出産を機に仕事を辞めた時、改めて自分自身の人生について考えました。そこには、建築士になりたいという夢をあきらめられない自分がいました。挑戦することさえもしなかったのも、何かやり残していることがあるような気がしていたのです。そして、その夢は、母として妻として生きていくうちにうやむやになってしまうように思えたのです。

ちょうどその頃、大学院の社会人の受け入れが積極的に行われるようになっていました。それでも今思うと無謀なのですが、住環境学分野なら文系の私でも・・・と二級建築士の受験資格が得られる大学院を受験することを思い立ったのです。育児と家事の合間を縫って、久々の受験勉強が始まりました。少しでも良い大学にと漫然と勉強していた高校時代と違い、明確な目標がありました。その思いが通じたのか無事に合格することができました。

そして、20代後半で再び学生生活を送ることになりました。若い学生に混ざって講義を受けたりゼミに参加したり。特に設計演習は、10歳近く若い学部生とともに受け、良い刺激になりました。作品の提出日前日はほぼ徹夜で、ギリギリまで粘っていましたが、周りも皆そんな感じでした。教授からの厳しい評価に打ちのめされることもありましたが、それも良い経験となりました。無我夢中であつという間の2年間でした。私のわがままを受け止め、支えてくれた家族にはとても感謝しています。

大学院修了後に、大学院の恩師からの紹介で設計事務所に勤務することになりました。主に福祉施設の設計アシスタントなどをして、5年ほどお世話になりました。

今は工務店に勤務し、住宅設計に関わっています。住む環境を整えることは、心を整えることにもつながり、生き方を変えてしまうことがあるほど重要なことだと信じています。住宅に関わる仕事は住み手の人生に関わる仕事でもあり、そのような仕事ができることは大変ありがたく、身が引き締まります。住み手が変わると生活様式も要望も変わります。土地が変わると建築条件も変わります。大袈裟かもしれませんが、毎回、初めてのような気持ちです。法的な規制を見落としていてヒヤッとすることや、施工手順や納まりがわからず恥ずかしい思いをすることもあり、反省する日々です。経験不足、力量不足を実感しながらも、周りに支えられて何とかやっています。

思えば、小学生の頃にドラフターを見て憧れた建築士。結局ドラフターを使うことはなく専らCADですが、図面を描いて仕事をしている現実に驚いています。

今後の事業予定

□ 2月 13日 (土)

近畿建築士会協議会青年サミット

□ 2月 20日 (土) ～ 2月 21日 (日)

青年委員会 奈良の森と木と家のフェスタ

□ 2月 21日 (日)

文化財専門家スキルアップ講習会

□ 2月 24日 (水)

住宅相談会(奈良県建築士会館)

□ 3月 4日 (金)

文化財専門家スキルアップ講習会

□ 3月 23日 (水)

住宅相談会(奈良県建築士会館)

□ 3月 24日 (木)

理事会 (奈良県建築士会館)

□ 4月 7日 (木) ～ 11日 (月)

二級・木造建築士試験申込受付

□ 4月 21日 (木)

理事会 (奈良県建築士会館)

□ 4月 27日 (水)

住宅相談会(奈良県建築士会館)

*** 編集後記 ****

「大和は国のまほろば」のまほろばは「素晴らしいところ」という意味であることをつい最近知った。施設名やイベントのタイトルで見かけることはよくあったが、恥ずかしながら意味を知らずに使っていた。私は小学生の頃から、実家を離れた数年以外の殆どの年月を奈良で過ごして来たが、実のところあまり奈良について詳しく知らない事が多い。我が子の小学校では立地の関係もあってか、世界遺産学習や奈良公園探索などの授業がとて多く、しょっちゅう校外へ出かけては様々なことを学習してきており、奈良や校区についての知識が実に豊富なのには驚かされる。こちらが教えてもらうこともしばしばである。

幸いなことに、今年の夏に奈良県で開催される、全建女のエクスカッションに少しだけ参加させてもらえることになった。県外からも来られる参加者の皆さんと一緒に少しでもたくさんの奈良の「まほろば」を見つけることができたら・・・と、とても楽しみにしている。

(中辻 千重)

